
大切な物は悪魔

草薙静那

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

大切な物は悪魔

【Nコード】

N13400

【作者名】

草薙静那

【あらすじ】

弱い存在の妖魔と守護する魔族

無力な妖魔

く行ったのか……。

私が美しければすべてが上手

今回の契約も破棄される事も

無かったのか……。

私達は力の弱い妖魔。

力のある妖魔に今まで守られてきた。

その妖魔も代が変わり契約の更新は無いと言いつ捨てられた。

「お願いします。私達は貴方様の守護が無いと長くは生きられませ
ん」

「私の知った事では無いと思うが」

この度の当主は女遊びが激しいと聞いていて悪い予感していた。
「婚姻関係で無くても構いません。お願いします」 頭を何度も下
げるが主はこちらを見ようとしめない。

「自分の身は自分で守れ、それにお前は私の好みではない」

「では、他の者をこちらに遣わしますので」

「見て分らんか？女には困っていない。それに五月蠅い女は必要
ない」

「申し訳ありません」

「何だ。今度は泣き落としでもするのか？」

うつむき加減に下を見ているとこちらを見たのか詰られた。

「そうだなこの魔界から出れば良いのだよ。手を貸してやろう」

「やめてください。そんな事……」

「下界ではお前のような妖魔は長くはないだろうな……」

彼は嘲りの表情を向けると手を一振りした。

すると足元が引きずられるように引つ張られる。

「い・イヤ……」

「諦めるお前の未来は決まったんだよ。じゃあな」
その言葉を最後に空間の波に投げ出された。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1340o/>

大切な物は悪魔

2010年10月14日15時29分発行